

琉球諸島の水ダニ類について

今村泰二（茨城大学理学部生物学教室）

On the water-mites of the Ryu-Kyu Islands

TAIJI IMAMURA

琉球諸島からの水生ダニ類についての報告としては、岸田久吉（1959）に静水種6種が記されているが *Hydrodroma despiciens* 以外は属名のみが記されている。Imamura 1957 a および b で地下水性のミズダニとウシオダニが各1種記され、また Imamura 1961には6種が記されている。このうち *Uenaxonopsis nazensis* は地下水性種で奄美大島の固有属である。Imamura 1964 には *Brachypoda ichikawai* が記されている。

私は1963年に奄美大島に、1970年に沖縄本島、宮古、石垣、竹富、西表の諸島の水生ダニ類調査の旅をした。そのほか、奥川一之助、宮崎 惇、上野俊一、森本義信、青木淳一の諸氏ならびに京大探検部の三井、今井、水野氏らの採集されたミズダニ類が私のところに届けられているので、それらをまとめて調べた結果を次に記する。

13科、17属24種がみられ、その中には琉球固有属 *Uenaxonopsis nazensis* Imamura が含まれている。琉球固有種7種、本州との共通種1種、本州、琉球、熱帯共通種1種、南方熱帯系種7種、欧亜共通種1種、新種予定4種が含まれている。特異なことは *Sperchon* 属が全く発見されなかったことである。

分布のうえで特に著しいことは *Limnesia lem-bangensis*, *Arrenurus rouri*, *Arrenurus laticodulus*, *Arrenurus multicornutus* などの南方熱帯系種が西表島または石垣島にはみられるが、宮古島以北には発見されないことである。徳田御稔博士の主張される南沖縄諸島（仮称）は哺乳動物のみならず水生ダニ類のうえからも充分に意義のある生物分布の線と考えられる。

養魚池のカイミジンコについて

大久保一郎（岡山就実短大）

Ostracodes in fishponds

ICHIRO OKUBO

ウナギの養殖に配合飼料を使用し始めから、カイミジンコが養鰻池に大発生し、水中の溶存酸素の大量消費、ウナギの冬眠の妨害などの理由で、環境破壊動物の一つとして注目されるようになった。特に、千葉、静岡、愛知の各県でその被害が著しい。千葉県内湾水産試験場、内水面分場（佐倉市、臼井、印旛沼南岸）で繁殖に大発生する、日本未記録の2種を報告する。

Candonocypris assimilis SARS, 1895—ハイナガカイミジンコ（仮称）。同試験場で“ナガカイミジンコ”と呼ばれている種。ニュージーランドから発見されている。池底を這いまわる。雄はいない。右殻の前後部で、外葉が縁葉となって突出するため、殻縁が内側に移動したように見え、癒合帯が2個生ずる。第2触角の遊泳剛毛は末端爪の先端に達しない。小顎棘は無毛。第3胸脚の第3節の中腹部に2本の剛毛がある。

Heterocypris incongruens (RAMDOHR, 1808) subsp. *attenuata* (GAUTHIER, 1938)—カワリイボカイミジンコ。“マルカイミジンコ”と呼ばれている種。イボカイミジンコ (*H. incongruens*) に非常によく似るが、くちばしの小瘤状突起群を持つ点でそれとは異なる。世界各地から発見されているが、後者と混同されているようである。水中を遊泳。雄は日本にはいない。